

Week2: Playwright CI 整備チェックリスト

このチェックリストは、Playwright を使った E2E テストの CI でよく起きる失敗を減らすための実用項目です。まず上から順に確認し、必要箇所を修正してください。

チェックリスト

1. 固定待機(waitForTimeout)を条件待機(waitForSelector/getByRole等)に置き換えた
2. 主要なセレクトを getByRole / data-testid に置き換え、UI 依存を減らした
3. playwright.config.ts で viewport/locale/timezone を固定した
4. CI コンテナに必要なフォントをインストールする Dockerfile を用意した
5. スクリーンショット比較の閾値と差分ポリシーを定めた
6. 並列実行による共有リソース競合を検出し、該当テストを serial に分離した
7. テストごとに一意のテストデータ (UUID サフィックス等) を導入した
8. 外部 API はモック/フェイクを利用するか、安定版のステージ環境を用意した
9. 重要な失敗時のログ/スクショ収集テンプレを導入した
10. CI 実行設定とローカル環境の依存バージョンをドキュメント化した